

405
小林友治著

10.11.18

特 245

991



戦雲の歐洲に 機密室は躍る

金儲に躍る戦争か？

はじまりとして起るか？

價定
十
錢

35
9

この寫眞は、百姓女の稚拙な手紙になつてゐるが、その交又する所を讀むと、「二月に二十萬の兵が出發する」といふ恐しい手紙になる。

1



* 0056031000 *

0056031-000

特 245-991

戦雲の歐洲に歐米の機密室は躍る

小林友治・著

小冊子書林

昭和10

AJB

この著作物は、著作権者不明のため、著
第67条の規定に基づき、平成12年3
月で文化庁長官の裁定を受け使用するも

目次

特245
991

一	まへがき	一
二	戦争を操る人々	二
三	利益の前に国籍はない	五
四	世界武器商の全貌	二
五	賣込みあの手この手	一五
六	列國機密室の兩眼	三
七	跳躍する間諜群	三五
八	極東平和を攪亂するもの	三〇
九	天國南米に伸びる魔手	四
一〇	超特急の金儲	元
一一	むすび	四

戦雲の歐洲に
歐米の機密室は躍る

小林友治



まへがき

戦争の雲に歐米の機密室は如何に跳躍するか。面白い題目であると思ふ。

一 一 一
味方兩國に、武器を提供し、相戦はしめる事によつて、如何に莫大の利益を擧げるか。時の古今を問はず、洋の東西を論ぜず、戦争を舞臺とするほど大きな金儲はない様だ。このパンフレットは彼等が所謂戦争をでつちあげる事にどんな策動したか。武器賣込みにいかに狂奔したか。軍機の秘密を探るべくスパイが如何に暗躍したか。そして彼等はどれほど儲けたか。これらの實話やら、エピソードやら、冒險的ロマンスやら、いろ／＼の事實を述べたものである。



乎した。

スタンダード石油会社のマーチン・カレールは「ウイルソン大統領の演説はアメリカ國民の眞精神を呼吸してゐる」と稱讚した。

ギヤランティ信託會社長ジエムス・ウオレスは、「大統領の演説はすばらしい」とほめちぎつた。

新聞王の活躍

事實、アメリカを經濟的崩壊から救ふためには、戦争以外に方法はなかつたのだ。もちろんこの宣戦はアメリカの軍需工業家や財閥を救ふためになされたものではなかつたか。結果はヴァンダーリップを以て言はしめた如く「戦争は百萬もの新しい富の源泉を生ぜしめた」のであつた。けれどもアメリカ上院共和黨議員ハミルトン・フィシュが「アメリカの武器輸出が、そも戦争の原因ではなかつたか」と叫ばしめる位大戰當時のアメリカの武器輸出業の活躍は目覚しかつた。しかし、一九一七年にアメリカ聯邦下院議員において、一九一五年三月以來アメリカを支配する大財閥モルガン財閥が、一大宣傳機關を援助して、有力なる十二の出版業者と百九十七の新聞社を總動員して「アメリカを戦争参加に導くべく活動した事實がバクロされた。世界はアツト言つて驚いた。フランスの政治家にして歴史家であるガブリエル・アノトウは、この事實を裏書きしてゐる。

ともかく戦争は、彼等武器商に繁榮をもたらし、平和は彼等を不幸に導く、黄金を生む卵である戦争を製造すべく、彼等がいかに策動し、暗躍し、活動するか。

アメリカ新聞王ハーストが西米戦争をでつちあげるべく、如何に誇張なるニュースを製造したか。イギリス新聞界の怪傑ノースクリップ卿が、英國を對獨宣戦にまで引きづりこむべく、如何なる虚報と誤報を創作したか。事實は小説より奇なりと言ふが、實に活動寫眞を観る様な面白い場面が幾多となく展開されたのである。

戦争と宣傳と金儲、鐵と血と利益、この三つの因果關係は、三位一體で離す事は出来ない様だ。さるにしても、戦争の蔭にかくれて怪しい糸を操つて、世界の政治家、軍人、學者、記者たちを踊らす歐米の軍需品製造業者の勢力は、恐怖べきものがあるではないか。

三 利益の前に國籍はない

歐洲の怪人物ザハロフ

愛國心を利用することにより、非常な金儲をする事業は、見わたした處、軍需品業より外にならな様だ。彼等は利益を得る事にかけては、ぬけ目はなし。

イツのクルツブ砲であつた。一九一四年ベルギー侵入のドイツ兵は多大な犠牲を拂つたが、これは戦前ドイツからベルギーに輸出した武器が多かつた。ドイツ兵がまたフランス戦線でひつかつた鉄條網は、ドイツ製のものであつた。イギリス製の武器で、イギリスが殺傷される。ドイツ製の武器でドイツ人が血を流す。コンナ馬鹿らしい事があるだらうか。だが、事實は英獨二國に限つた事ではない。世界各國の軍需品製造業者に共通した事實なのである。こんな例は枚舉に遑もない程ザラにあるのである。

日本へ飛行機を賣る

一九三四年九月からアメリカ上院議院で開かれた、軍需工業調査委員会で、アメリカン武器會社の社長ミランダが、日本の大倉組へアメリカの最優秀機ロツクヒード機を賣つた事が素破抜かれて、大センセーションを捲起した。その最優秀機が、たぶん日本の海軍省へ納入せられたものであらうと推定してゐるなど、ちよいと日本などでは發表され得ない皮肉な現象だ。調査委員會の問答を左にカンタンに抄出して見よう。問答は調査委員ボーンとアメリカン武器會社長ミランダとの間に交換された應酬である。

問 君の商賣上の關係について尋ねるが、極東方面、つまり、日本と支那とに何か聯絡があるかね。

答 支那では上海に本社を持つてゐるアングラトン・メーヤー會社など、取引がある。

問 それから日本では……

答 大倉組である。

問 大倉組は武器の輸入をやつてゐるのか、それとも輸出をやつてゐるのか。

答 輸入業者でもあり、また輸出業者でもある。とにかく日本では有力な大貿易商會である。

問 日本へ航空機を賣つたといふ事だが、どんなものを賣つたか？

答 ロツクヒード機だ。

問 それはアメリカが有つ最優秀機ではないか。

答 僕はそれが大倉組から、日本の海軍に賣渡されたものと推察してゐる。

問 さうすると日本の海軍が、現在において最新式のロツクヒード機を整備して居る事になるな。

答 さうだ。

問 アメリカ政府は日本に對して、アメリカが有つ世界快速機を賣渡される事は、大なる苦痛ではなからうか。輸出禁止をしなければならぬと思ふが……

答 どうも恐縮ですな……

問 君に警告的に注意を促すが、われ／＼は新聞によつて知つてゐるのであるが、日本は常に戰

に従事した。そしてバアシル・ザハロフといふ怪物が出て来てから、同社の存在は世界的に認められた。

同社の社長はサー・ハーバード・ローレンス將軍である。会社の株主には軍人、國會議員、貴族記者など英國政界を動かす有力者が多い。政府と密接なる關係を有つためであらう。株主の中に一九二五年のノーベル平和賞受領者の元外相サー・オースチン・チエンバレンが居り、勞資協調論者のメルチエツト卿、國會議員ネヰイル・チエンバレン、陸軍大將クーパー卿、元軍需主計官ゼンキンソン卿などその他高級將校などが多い。同會社系の武器會社はカナダ、ニュージールランド、アイルランド、ルーマニア、スペイン、オランダなどに各會社を有ち、チエツコスロバキアのスコダ會社、イタリーのヴイツカアス・テルニ會社なども聯絡がある。

フランスにはどんな會社があるか。フランスでは各種の武器會社が、コミテ・デ・フォルジュといふ一つの大きな聯合を組織して居り、この聯合の總裁はフランソワ・ウエンデルといふ人。この人は元ドイツ人だから面白い。ウエンデル家はすうつと古くから武器製造に従事し、そして時勢に應じてフランスに籍を移したり、ドイツに籍を移したり、カメレオンのな國籍の變色をやる人である。この聯合に屬するもつとも有力な會社は、シュナイダー・クルゾオ會社、ホツチキス會社などである。シュナイダー・クルゾオ會社の社長は、ユージン・シュナイダーである。これ

も祖先は元ドイツのザール地方に住んでゐたが、それがフランスに移住し、クルゾオといふ土地で始めて武器工場を起したのが、そも／＼シュナイダーの始りである。

シュナイダーは、もと／＼政治屋上りの銀行家であつたためか、ルイ・ナポレオンのクーデーター陰謀に、資金を提供して、大いにナポレオンに可愛がられた。ナポレオンから軍需品を請負つて大儲けしたのみか、貴族の列に引きあげられた。シュナイダー會社も、ヨーロッパ諸會社に勢力がある。就中その勢力圏内にあるものはチエツコ・スロバキアのスコダ、イタリーのテルニ會社などである。ポーランド、ルーマニア等も勢力範囲にある。

ドイツはヴェルサイユ條約で、武器製造を極度に制限されたためか、クルツプなどはオランダに工場を移した様なわけである。が、しかし、敗戦前まではドイツのクルツプと言へば、世界の大砲王とまで謳はれたくらいで、普佛戦争でもクルツプ砲の勝利であると言はれたし、大戦でもクルツプ砲は聯合軍を悩ましたものである。現在では國際聯盟を脱退したし、軍備平等を主張するなどの、ドイツ國內の軍備擴張熱と相俟つて、大袈裟に武器製造に大車輪をかけてゐるとの事である。

その他のヨーロッパ諸國ではイタリー、ベルギー、オランダなどがある。

大勢力を有つ一流會社

かけつけて来た警官と消防夫が水やアンモニアでガスを一生懸命に拂ひのけようとしたが、無駄であつた。幸ひにも一陣の微風が吹き渡つて、さしものガスも拂ひのけられ、ハンブルグ市は恐ろしい運命から救はれた。後に判明つた事であるが、爆發したタンクは戦時用の毒ガスで、近々ロシアへ向けて輸送されるものであつたと。これは大戦中使用された毒ガスよりも一層強烈なもので、無色無臭の氣體で、一度でこれを撒布すれば、凡ての生物はたちまち死んでしまふ怖ろしいものであつた。

毒ガス製造事業に對抗して新らしい事業が生れた。それはガス・マスクである。將來戦において怖るべき毒ガスは、戦場においてのみならず、敵國の市街若しくは重要都市に撒布される可能性がある。利に敏いガス・マスク業者は、怖るべき毒ガスとこれを避くるガス・マスクの必要を説いたパンフレットを撒布し、ポスターを各所に貼りつけて、

「ガス・マスクを使用せよ」

と、大童に宣傳してゐる。伊エ戦争で文明の利器から遙かに離れたエチオピアの山中にまで、ガス・マスクが、平價の五倍乃至十倍で羽根が生えた様に賣れたから、テモ怖ろしい宣傳時代ではないか。これは武器賣込み宣傳相の一つである。

支那の航空整備に拍車をかけるべく、イギリスの或る飛行機製造會社は、支那向のカタログに

次ぎの様な文句を書いて送つた。

「イギリス國爾尙書エデン大佐は、一九三三年十一月三日、スキプトンにおいて、重大な豫言を試みた。曰く、

——航空機の非常なる發達のため、イギリスは從來の如く、島國でなくなつた。イギリスは從來の如き大陸から獨立した傳統的孤立政策は採れなくなつてしまつた。

このエデン大佐の言葉は、單に歐洲においてのみ通用さるべき言葉ではない。風雲急を告げる極東(支那とは言はなかつた)においても、特に考ふべき事であると信ずる」

なかなか味の事を書いてゐる。思はせぶりな賣込み戰術である。一日本の空襲を防ぐには俺の會社の優秀な飛行機を買ふべし」と露骨には言はない。ジョンブル式カタログだから上品に書いてあるが、ヤンキー式カタログならコンナ風に書いたであらう。

「將來戦は空中にあり」と率先して空軍の威力を痛感したファシヨ・イタリの御大ムツソリーニは、航空事業の重要なるに鑑み、幾多の優秀な飛行機を作つてゐる。隣國フランスが國境防備に莫大の豫算をかけてゐるので、イタリもまた追加豫算二千六百萬ドルを出して、國境防備に大童である。

そして、隣國ハンガリーを應援して、同國の軍備再建にひそかに助力してゐた。ハンガリーへ

時々武器を密輸出するので、英佛の監視員の眼が鋭かつた。一九三二年暮のおしつまつた十二月三十一日から翌年一月一、二、三日にかけて、イタリーから、四十臺の貨車に機關銃を満載してひそかにオーストリアのヒンデンブルグといふ小都市に送つた。そこで武器を夜陰に乗じて運搬自動車に積み込み、國境を突破してオーストリアへ密輸入する積りであつた。これがはしなくも英佛監視員に發見されて、世界的大センセーションを捲き起した。これがヒンデンブルグ事件と言つて、ドリユウの著「死の販賣人」の中に素破ぬかれてある。武器密輸出の暴露された一事實である。

これは米西戦争の時である。ヨーロッパの武器製造業者が、國際公法により、アメリカ陸軍へ武器を賣込むことが禁止されてゐた。

某國の汽船へ大砲、彈藥、その他の軍需品を満載した汽船が、積荷の表面へ石炭をばらまき、アメリカ沿岸に船が近づいた時、船から一發の銃砲を合圖として、船員はボートに乗り移り、「暴風だ、避難せよ」

と叫びながら、船をおいたまゝ沿岸さして漕ぎ去つた、それから間もなく、そこへ黒煙を吐いたアメリカ軍艦が堂々と姿を現はした。漂流船を發見したと稱して、武器を満載した汽船はニューヨークの海軍鎮守府へ引き込まれてしまつた。漂流船

と稱して武器を沒收（その實は買ふ）する。こんな手もあるのである。

賣込の冒險的なロマンス

アメリカのウインチエスター連發銃會社の武器賣込にまつはる冒險的ロマンスがある。動亂の地メキシコのホワレス將軍から、ウインチエスター會社に、連發銃一千挺と五十萬發の彈丸の注文があつた。同社では敏腕な外國賣込係りであるトム・アチスに命じて、メキシコ國境テキサス州ブラウンズヴィルまで來て、そこから、またメキシコ國內へ二百四十哩の奥地深く入つた。

するとホワレス將軍の使者が、

「金は後で送るから、早速、武器だけ渡して貰ひたい」

と申込んで來た。慧眼なるトム・アチスはこんなインチキに引つかゝるものではない。

「わが社は現金引換でなければ一發でも彈丸はお渡し出来ません」
きつぱり、拒つてしまつた。

これをきゝこんだホワレスの敵方であつたマキシミアン王も、一千挺のウインチエスター銃と五十萬發の彈丸を買收しようとして焦りぬいた。トムはこれをホワレス將軍に通告して、「現金なら誰にでも賣ります。早いものがちです」

と。これをきいたホワレス將軍、吃驚仰天數百樽の中へ銀貨を充満つめて、武器と現金引換に

やつて来た。トム・アチスは武器を賣つて現金を受けとつた。けれどこゝに大問題が起つた。幾百樽の中につめこんだ重い銀貨を、どうしてアメリカへ運搬するかといふ事である。考へぬいた揚句、古い驛馬車の中に銀貨を載せて陸路アメリカ指して歸國の途についた。狡猾なホワレス將軍、なんでこの銀貨を積んだ驛馬車をアメリカへ返へさうか。腹臣の部下に命じて銀貨奪還の兵を送つた。

トム・アチスは馬車がモントレイの町はづれに出るや、馬車の馭者に、ピストルを差しむけ、「手を上げる。さもないと一發御見舞申すぞツ」

おどかしつけ、馭者に猿轡をはめ、後の座席の中へ放りこみ、自ら馭者臺にすはり、路をわざと森林方面にむけて、舊道を通つた。

間髪を入れず、その後へ白塵濛々として、一隊の騎馬團、言はずと知られたホワレスの部下が銀貨を奪はんものと、本街道を馳驅して去つた。

「うまくまいたぞ」

トムは内心よろこび、それでも四邊に注意を拂ひ、幾多の危険を冒し、遂に銀貨を本社に送り届けた。恰も西部劇の活劇を見る様だ。それはトムがウインチェスター工場を出發して以來九ヶ月目であつた。

ウインチェスター銃を貰ひ込んだホワレス將軍は、隊伍を整へ、メキシコ市を包圍攻撃し、マキシミアン王を銃殺して、メキシコ共和國の基礎を作つた。

武器會社の賣込みのあの手に、幾多の悲劇あり、喜劇あり、活劇あり、笑劇があつた。實に千態萬様である。

六 列國機密室の兩眼

スパイを使へば安上り

世界各國は年頃の乙女が、恰も戀愛を胸に秘める様に、新發明の武器を極秘に附してゐる。新武器の發明、これを奪ふスパイの活躍、外交文書の機密、これを盗讀せんとするスパイの一群。列國機密室の兩眼は怪しい程に光つてゐる。

イギリス陸軍は寒帯地方でも有効に使用し得られる様な、無煙火薬の製造を永い間研究してゐた。永年の苦心の結果、漸くコーダイトといふ火薬を發明した。これを極秘に附してゐたところが、翌年には既にロシア陸軍でもこれを使用してゐる事が發見された。いかなる方面からコーダイト火薬製造の秘密が洩れたか。それは今以て謎とされてゐるが利に敏い軍需工業家も居るし、列國のスパイ群の活躍もあるだらう。軍器の秘密と言ふ事はなか／＼保てないものらしい。

ヨーロッパの或る大國が、海軍の武器に關して重大な發明がなされた。發明者は百萬ポンドなら一切の權利を讓渡すと公言した。ところで國歩多難な秋に、百萬ポンドの大金なんてトテモ支出しきれぬものでない。一政治家がその新發明買収支出金に反對し、いとも快活な皮肉をまぜかへしながら「どこか外國政府にその發明を買はせるがいふ。我々はちよいと待てばスパイがそれを盗んで來る、その方が安上りだ」

と言つてのけた。この現實主義の男が世界最大のロンドン銀行總裁なんだからやりきれない。一口にスパイと言つても、色々な種類の人間がある。國際的スパイとして活躍してゐる中に、外交官あり、武官あり、商人あり、會社員あり、新聞記者あり、俳優あり、踊子あり、娼婦ありと言つた有様で、千姿萬態である。

列國の機密室の活躍を叙した本は數限りなくあるが、試みにハーバード・ヤードリの書いた、「米國の機密室」を讀んで見給へ。アメリカ政府が、御用濟みのスパイを紙屑を道ばたにすてる様に解雇したので、これに向ツ腹を立てた、ヤードリがいかに痛快なバクローを敢てした事か。

ワシントン會議當時、日本外相内田康哉より駐米大使幣原喜重郎宛に機密電報を盗み讀み、日本の機密電報が、いかにたわいのないものであるかを嘲笑してゐる。日本の外交文書の暗號電報が悉くアメリカに盗み讀まれた。軍縮會議が對米七割の主張を、六割に讓歩するの止むなきに至

つた。スパイ戰線において先づアメリカに敗れたからだ。東京からワシントンに來る訓令が、悉くアメリカ政府の知るところとなつたからだ。これぢや、外交交渉もへちまもあつたものぢやない。數ヶ月の苦心の結果、日本の暗號を解讀した時のヤードリの狂喜。友人が彼にさゝやく。「ワシントンでは俺たちの電報解讀が出來たので、喜んで居るだらうな」
「あたりまへさア、奴さんたち（アメリカの外交官）は、朝飯を喰ふ前に、東京から來る訓電を日本全權より先きに知つてしまふんだからなア」
ヤードリは得意になつて答へる。

たわいのない日本の極秘電報

日本政府が加藤友三郎全權に對し、六割比率の承認を訓令したその電文は、加藤全權が會議で演説する前に、ワシントン官邊では、もう既にわかつてゐたのだ。日本はスパイ戰線で、たしかにアメリカに敗れたのだ。その上に海軍比率でも讓歩した。その機密電報の一文を掲載しよう。

「十二月十日、内田外務大臣發 加藤全權宛會議一五五號、極秘至急

貴電第一四二號及一四三號に關し（中略）我方は十對七比率を以て、帝國々防の安全保障に絶對必要なりとの主張し來りたる次第なるも、米國は極力ヒューズ案を固執し、英國または是を支持し居れり。従つて我主張貫徹の望み全くなきに至れり。よつて茲に大局に鑑み、協調の精神を以

て、米國提議の比率を受諾するの外に執るべき途なし（下略）

コンナ電報が極秘至急と言つたところで、ワシントンへ筒抜けだからたまらない。なにもヤードリの著書の提燈を持つわけではないが、當時のワシントンの情報部の活躍振りを一寸紹介しよう。このアメリカの機密室は全盛時には百六十五名の男女雇員が働いてゐた。

「何千といふ文書が我々の手を通過する。門をかけて隠匿され、護衛されてゐる。機密室は總てを見、總てを聞く。窓に鎧戸が下り、厚いカーテンが重々しくかけてあるのだ。どこまでも利く機密室の兩眼は、ワシントン、東京、ロンドン、パリ、ジュネーヴ、ローマの秘密會議室を透視して、その敏感な耳は、世界の首都のどんな囁きでもきよつける。

ローマでは晚餐會の後で、二人の大使が一隅に引きさがり、低聲で有名な新聞記者フランク・シモンズと、彼の明確な記事が、軍縮會議に及ぼす結果などについて議論してゐる。二人とも文筆の士としてのシモンズに恐怖を抱いてゐる。

ジュネーヴでは或る大使がルイズ・シーボルの打つ電報が、好評を博する事に狂ひじみた興奮を示してゐる。この有名な新聞記者も亦怖れられてゐるのだ。

パリでは公式晚餐會席上、フランスの海相が日本の大使に耳を寄せて、日佛兩國は潜水艦問題について、最後まで頑張らねばならぬと囁く。

ロンドンではカーズン卿が、アメリカが今日の會議を盗み去つたと言つて、いまだに不機嫌でゐる。

東京では、秘密な諮問會が開かれ、日本の指導者たちが、會議へ持出す彼等の要求を立案してゐる。」

コンナ風に、世界各國より、アメリカに來る情報が、鏡に映る如く明らかにされて居るのである。

七 跳躍する間諜群

盗まれた日本の暗號

ついでにもう一つスパイ活躍の實例を掲げて見よう。ロシアのスパイがいかに活躍し、日本の外交官がいかにしてやられたかを示す材料として、小松緑氏の書いた「外交秘話」から抜粋してみよう。これは外交事務に携はる人には強烈なる教訓を示すと共に、國民の常識として知つて置かねばならぬことであると思ふ。

身装は相應ではあつたけれど、一癖ありげな男が、パリーの日本公使館へやつて來た。

「極く秘密の用談があつて來たのだ。是非とも公使に會はしてくれ」

といふ。名前はときくと、

「名はつけられない。公使に會へばわかる」

といふので仕方がなく受付は本野公使にとりついで。公使本野一郎もまさか自分を暗殺しに来たものでもあるまいと思ひ、應接室でこの不思議な男と會見した。

「わしはロシア人だが、日本の暗號電信符號を持つてゐる。これを相當の値段なら賣つてもよろし。公使はまさかこの男が……と思つたが、

「それなら見せてくれ」

「今は持つてゐない。家に匿つてある。その證據には、日本の暗號電報を示して渡して見せなさい。なんでも平文に直して見せる」

本野公使はそれを信用しなかつたが、試しに短い新聞記事の暗號を示してやつた。するとその晩にこの男が平文に譯して持つて來た。一字も間違つてゐない。本野も飛び上らんばかり驚いた。そこで

「いくらだ」

ときくと、この男は

「五千フランより一文もまけない」

といふ。結局その暗號を五千フランの大金で手に入れたが、秘密暗號を手に入れたこの男の打明話が振つてゐる。

「わしは、もと國際探偵局の外國電信係を勤めてゐた。その任務は各國の電信暗號を盗み取ることであつたが、日英同盟が出來てから、ロシアは大いに警戒を要することになつたので、日本の電信暗號を手に入れる様に特命を受けた。それを盗むために、わしは第一に目星をつけたのが、電信暗號を餘りに使はないオランダの日本公使館であつた。當時の日本公使館であつた。當時の日本公使は獨身生活であつたし、また酒飲みときいたので、ロシア美人を女中に住みこませ、公使の酔拂つて熟睡中に、まんまと暗號を寫し取つたのである。」

本野は意外の告白をきいて一寸驚いた。この秘密暗號が、日露戦争直前にロシア側で大いに役に立つたのだ。

日本の電信暗號をロシアの機密家の手で、マンマと盗みとつたのであるから、日本よりの電報が何もかもロシアへ筒抜けだ。當時ロシア駐在の栗野慎一郎公使の回想談が、このことを裏書きしてゐる。

「日露國交斷絶に至るまでの談判中、吾輩から出す電信も日本から來る電信も、すぐにロシア政府に知れてゐた。恰度日露國交がますます險惡に向ひつゝある時であつた。注意人物であるベゾ

ブラゾフが露都に來たので、吾輩は彼と幾度ともなく面會した。彼は口癖の様に日本に對して悪感情を抱いてゐないと言つてゐた。そして突然、近頃私の名が變りましたなア、と言つてニヤリと笑つた。ハテナ、をかしい事をいふわいと不思議に思つた。ハツと思ひ當つたのは、本省（外務省）と往復の電信暗號中に、始め彼の名をそのまま綴つたが、あまり多く出るので、後にベゾブラゾフと明記しないで、それを一つの暗號に拵へたのである。それを彼が知つてゐるからには日本の暗號電報を持つてゐるに違ひないと思つた。

更らにまた驚いた事には、或る日藏相ウイツテを訪ねた。するとウイツテは、莞爾としながら貴國の暗號は、貴國では暗號と思つてゐるだけで、他國に對しては、誰でも讀める平文ですぞと言つた。

それから吾輩は二月五日（明治三十七年）に書記官をしてロシア外務省に最後通牒を出さしめたのであるが、その前日である四日午後八時頃何喰はぬ顔をして招待された帝室劇場に行つた。露國皇帝も皇后もいつになくなれなく吾輩に話をしてくれた。

だが室の中の空氣は何となくざわついてゐた。外務大臣がひそ／＼話あつたり、あつちへ行つたり、こつちへ來たり、たゞならぬ空氣が漂ふてゐた。フランス大使が横合から、
（愈々おしまいですな）

と言つたので吾輩もびつくりした

栗野公使が前日に受取つた電信の内容が、ロシア政府に知れてゐたのである。

見えざる脅威

スパイ跳躍の材料をサラケ出せば、汗牛充棟あるので、一々指摘はしないが、ウイルソン大統領のスパイとして、赤いロシアで暗躍したエドガー・シツソンの「赤い百日」を讀んで見給へ、この社會民主主義者であるシツソンが、革命前のロシアに潜入して、モスクワにおいて當時無名の一労働者スターリンと共にハンマーを握りながら、いかにロシアをスパイしたか。

ヘクター・バイウオーターの「間諜は跳る」によると、世界大戦前と大戦中における英帝國密偵部の活躍を詳細に亘つて述べてゐる。ドイツ間諜の陰險さにも増して、老獪英國の間諜の活躍には今更ながら吃驚するのである。

一昨年末、アメリカで出版せられた、スパイ盜讀の權威者例のヤードリが書いた反日小説「日本の紅陽」を讀んでごらん。米露國交恢復を阻害せんとして、日本の密偵團が如何に活躍したか日支混血兒たる美しいサクラ姫の活躍、大使館の舞踏會、暗號盜讀、アメリカ密偵部の活動、日本の密偵部の暗躍を描いてゐる。小説家でない彼の文章は汚りつばいまづいガサツなものではあるが、小説の中に躍る日本のスパイ團がどんな組織で、どんな人物であるかを指摘してゐる點な

どは興味あるものと思ふ。

國際外交舞臺において、スパイもの研究では、既に權威者として有名であるドイツ新聞記者ベルンドルフの「世界外交地下戦」の如きも、國際政局の曲者、イギリスの老獪さを描き盡して面白と思ふ。何れにしても、列國の「見えざる脅威」である機密室の暗躍はめざましい。

八 極東平和を攪亂するもの

支那をめぐる暗躍

天國はなにも宗教家ばかりの專賣特許ではない。軍需工業者にも天國はある。それはどこか。年中革命と暴動と暗殺の絶えないと言はれてゐる南米と支那とである。

昨年九月に開かれたアメリカ軍需工業特別調査會において「武器業者が戦争や戦争懸念による軍備充實に乗じて、いかに不當な利得を擧げてゐるか。それがまたいかに各國民に非常な犠牲を拂はしめてゐるか」について、大いに世間の注意を喚起した事があつた。かれらは、ありとあらゆる手段と術策を弄して、武器の賣込みに狂奔してゐる。

上海、滿洲兩事件の前後を通じて、利欲以外に何物もない彼等が、いかに策動暗躍したか。支那に對し、歐米の武器會社から飛行機をはじめ、凡ゆる新舊武器が賣込まれ、極東の空に不愉快

なる暗雲を漲らすと共に、更らに支那の言論機關を操縦して、反日抗滿のデマを飛ばした。また武器賣込に際し、支那當局要路者に對し、贈收賄が行はれて、巧みに彼等は、しこたま儲けた。

言論機關を操縦し、要路者を抱きこみ、武器賣込人を操りつゝ、凡ゆる方面に魔手を伸ばし、戦争を勃發せしむべく努力するこれらの武器業者こそ、極東平和の攪亂者と言はねばならぬのである。

これらの英佛獨伊等の武器業者が、支那を舞臺として、活發な暗躍を續けてゐるのだ。上海にはこれらの「國際的事件屋」の出張所が設けられ、なにかことあれと待機してゐる。

上海事變當時アメリカの優秀機ボーイング機が、支那空軍に賣られ、日本空軍を悩ました事があつた。後でわかつた事だが、操縦者までアメリカ人であつた事などを思ひ出すならば、アメリカがいかに支那全國の航空整備に支援を與へてゐる力がわかるのである。

上海事變で日本にこつびどく叩きつけられた支那は、空軍の整備に醒めて來た。その際に巧みに宣傳して、アメリカ飛行機製作會社が支那に賣込んだ飛行機は數百臺に上つた。スチムソン會社は西南航空会社に二臺、コンソリデット・エアクラフト・コーポレーションから二十五臺、ユナイテッド・エアクラフト・コーポレーションから國民政府へ三十臺の爆撃機とコルセーヤ式偵察機、中國航空公司へ旅客機六臺を賣込んだ。一九三四年にはカーチス戦闘機六臺が廣東軍司令部へ

練習機二十四臺、爆撃機四臺が送られた。その他イギリスのヴィツカアス・アームストロング會社、フランスのシュナイダー會社、イタリアのテルニ、チエツコのスコダなどが夫々賣込みに狂奔してゐる。かういふ情勢であるから、所謂一九三六年國際危機までには、豫定通り一千五百臺の空軍の整備が實現せられるであらう。

地上に伸びてゐた彼等の魔手が空にまで巨大な力を伸ばして來たのだから、日本も從來の如く島國として安眠を貪る事が出来なくなつたわけである。各國からどんな武器が支那に賣込まれてゐるか詳細な數字はわからないが、相當多額の金額である。またそれだけに彼等の利益も大きいのである。

どんな武器が賣られたか

日本でも歐米諸國の武器援助を、嚴重に監視してゐるが、最近某所へ着いた情報を綜合すると列國の對支武器輸出状況ばだいたい左の如くである。

アメリカ 昭和八年四月高射砲十一門、要塞砲三門、新式高射機關銃十五挺 十五サンチ迫撃砲十五門、探照燈十二個、擲彈器二十個を南京に陸揚した。また同年六月、輕機關銃、航空機附屬品等を砲艦フルトン號で、厦門付近の安海に陸揚した。同年八月漢口市商會が武漢警備司令部に獻納した裝甲車（機關銃三挺附屬）一臺はアメリカ製であつた。また同年八月小銃五千挺、機

關銃百挺、砲三十門米艦により厦門に陸揚し、十九路軍に賣渡された。

イギリス 昭和八年三月二十九日、イギリス下院における商務次官の言明によれば、昭和七年九月より、昭和八年二月に至るまで、イギリスの大砲及高度爆藥類の對支輸出全額は、五萬一千八百十六ポンドである。同年十一月十七日下院において、昭和八年七、八、九十月の四ヶ月の對支供給軍用器材に關し、商務次官は次の通り答辯した。四十ミリ彈丸一、〇〇〇、五十キロ飛行機用爆彈一〇〇、魚雷六、飛行機用彈藥搭載器八〇、爆雷四、火藥二〇、〇〇〇封度、放射火藥一九、八一八封度などである。一月十七日廣東軍第一艦隊司令部より、イギリス「ソーニクロフト」會社に注文した魚雷艇モーターボート二隻は香港經由、黃浦に回航された。三月にはヴィツカアス・アームストロング會社との間に、六トンタンク十二臺及輕便水陸タンク十二臺、彈藥三十二個購入の契約が成立した。

ドイツ ドイツ製武器彈藥の對支輸入説は傳へられてゐるが、昭和八年四月カロウイツチ會社の裝甲自動車五十臺、戰車十二臺が注文され、同年五月南京政府モデル銃一萬挺をカロウイツチ會社に注文した。

フランス 昭和八年支那はフランスより高射砲十二門、彈丸十萬發（價格五十萬元）を購入れた。また四川省第二十四路軍長劉文輝に對し爆撃機六、爆撃機關銃、彈藥等價格三百萬元を提供

し、その代償として西康省の或地點に對する特殊權利を獲得しようとしたが、對側の反對のためこの賣込みはオジャンとなつた。しかし昭和九年三月廣西側と安南總督府との間に合計金額五百萬元に達する飛行機、野砲機關銃及びその他の購入契約が成立した。

イタリー 昭和八年二月、小銃、機關銃、拳銃、及彈丸八百トンが支那に輸送された。イタリー最優秀飛行機六臺購買に對する、お禮のためムツソリーニは、最近世界最優秀を誇る旅客機を國民政府に獻納した。

チエツコ 八年一月廣東政府とスコダ會社との間に廣東虎門要塞用十二インチ砲八門、八インチ砲八門、黃浦、東江、河頭、北江防備用六インチ砲十二門、四インチ砲十二門、合計價格香港銀四百五十萬ドル購入契約が成立した。三月頃南京政府とスコダ會社との間に小銃五千挺の購入契約成立、三月南京政府より機關銃五千挺注文した。

滿洲上海事件を通じて、忠勇なる皇軍が貪欲飽くところを知らない、歐米の武器商のため貴い血を流した事を知つた時、諸君は果してどんな考へを抱くか。

極東平和を亂す者は、歐米の武器商たちの魔手である。

九 天國南米に伸びる魔手

すさまじい武器賣込戰

支那と同様に武器輸出の天國が南米である。一九三四年四月中旬、グランチャコをめぐつて、一大激戰が演ぜられた。パラグアイ陸軍はシュナイダー會社から提供された武器で、ポリヴィア軍はヴィツカアス會社から買つた武器で戰つた。戰爭の結果は、ポリヴィア軍はバリケードを築いて、パラグアイ軍に猛烈な抵抗を試みたが、連戰連勝のパラグアイ軍のため大打撃を受けて、再び立ち上れない大敗北であつた。裏面に躍る武器戰では、フランス側が勝つたわけである。

この事件は、三年ばかり前を想起して見る必要がある。南米において英國の産業博覽會が開かれて、英國皇太子殿下が、わざわざ英國を代表して御出席なされた。皇太子殿下の御出席の使命は、イギリス産業の南米における新しい開拓と販賣とであつた。これは、ホンの表面の口實で事實は、ヴィツカアスと、アームストロング兩會社の武器賣込みが主要な目的であつた。兩會社の南米進出は、ポリヴィア、パラグアイ兩國を刺戟して、國防の充實に邁進させた。充實せる武器を手にする兩國の睨み合ひは、日増しに激烈となつて行つた。フランスでもイギリスの南米進出を黙視するわけがない。これもシュナイダー會社が割込み運動を開始した。

國際聯盟調査委員の報告書にも「この兩國においては過去數ヶ年に互つて武器が製造されないにも拘らず、戰爭し得るのは他國より武器が供給された證據である」として、暗に英佛二國の軍需

業者の猛烈な武器賣込みが戦争の遠因をなしたものであると非難してゐる。

武器なくしては戦争はあり得ない。過去數年に互る南米の戦争と革命と暗殺とをめぐつて如何に歐米の諸會社が躍つたか。大體において南米諸國はラテン民族の血を引いてゐるせい、戦争が起ると熱狂する。過去十年間の南米の歴史を繙くと、革命、叛亂、戦争の連続である。ボリヴィア國は過去百年間に、七十人の統治者が代つた位政治の安定しない國である。一九三〇年ボリヴィア國大統領フェルナンデス・シレスは、元プロシア軍司令官ハンス・クント將軍を陸軍の教育總監に任命して獨裁政治を布いた。クント將軍はドイツから武器を輸入して、ボリヴィア軍隊を南米第一の軍隊とせんものと苦心した。ところで同國唯一の財源である鉛の市價が暴落したために、經濟界が混亂して叛亂が起つた。その時に使用した武器は何れもヨーロッパの使ひ古しの武器だとか、アメリカでの武器のお古であつた。

前アメリカ大統領フーバアが一九三〇年、南米を訪問した時、ペルー大統領オグスト・レグイアは大歓迎した。その時レグイア大統領は、經濟界の不況にも拘らず、アメリカ商人から巨額の軍需品を買つた。それが原因となつて間もなく同國に叛亂が勃發して、同國のマニユエル・ボンセ將軍のため、レグイア大統領は職を追はれた。臨時大統領となつたボンセ將軍は、アメリカ合衆國の勢力を驅逐した。しかし、間もなくサンチエス・セロ將軍の率ゐる南米革命軍のために追

はれた。セロ將軍の背後にはアメリカ人があり、アメリカの優秀な武器があつた。同將軍は一九三二年、教會から出て來たところを暗殺者の兇弾で負傷して助かつたが、間もなく再び兇弾に見舞はれて倒れた。彼の死後ペルーは叛亂が繰り返へされて、その都度歐米各國の武器商が旺んに賣込みに暗躍した。

革命と動亂と暗殺の三重奏

ブラジルと言へばコーヒー、コーヒーと言へばブラジルを思ひ出すほどブラジルはコーヒーで有名である。コーヒーの値段が著るしく暴落すると必らず暴動が起るのである。一九三〇年十月二十四日、ブラジルの首都リオ・デ・ジャネイロに突然暴動が起きた。陸海軍の軍人までが是に加擔して、ルイズ大統領は追放され、陸軍の指導者タツソ・フラゴソ大將が新政府を樹立した。その頃リオ・デ・ジャネイロを出發したドイツ汽船が新政府を顛覆せんとする叛軍の武器を積込んでゐた。これがブラジル軍艦に發見された。ドイツ汽船は砲撃を浴せられて、二十四名の死者と七十名の負傷者を出して大騒ぎとなつた。結局軍需品輸入の事實が判明したので、どうする事も出來ず、ドイツ政府の泣寝入りに終つた。その後サンパウロ州にも叛亂が起つた。その時世界大戦に出征したドイツのクリンゲル將軍が叛軍の總指揮者となり、ドイツから買ひ込んだ飛行機、戦車、大砲、機關銃、鐵條網などを使つた。ブラジル國軍とクリンゲル將軍との間に大激戦

が演じられ、政府軍が大勝した。この時に叛軍に使用せられた武器はヨーロッパ製品のもものが多かった。

チリーも亦叛亂が絶えない、一九三〇年大統領カルロ・イバネエスが叛軍のため辭職せしめられて以来、今日まで數代の政府の實権者は變つた。叛亂の原因は經濟問題が多い。實権を握つた人々が、常に私利私欲のために國家の利益を顧みなかつたので、政府は樹立されては顛覆された。一九三二年前駐米大使カルロ・ダヴィアが天下を握つたが三ヶ月天下で、彼の幕僚マアテコウクカロオヴ大佐が天下を取つたが、その後はチリー陸軍總司令官のブランジュ將軍のため追はれた猫の眼の如く變る政權獲得運動の裏面には、もちろん歐米の武器業者の活動がある。彼等は馬券を買つてゐる様なものだ。自分の賭けた馬が勝てば武器賣上代金はたんまり貰へるが、敗けた場合は一文も取れない。

アルゼンチンは南米のうちでも比較的政變の尠ないところだ。一九三〇年九月ウリブル大將の引卒する叛軍のため、イリゴエン大統領は辭職した。ウリブル大統領が正式に大統領選挙をしなかつたといふ理由で、再び暴動が起り總選挙の結果は、オーガスチン・ユウスト大將が絶對多數で大勝して大統領となつた。前大統領イリゴエンは、新政府に反對して叛亂を企てたが、事前に發覺して逮捕され獄中で死んだ。それはヴェノス・アイレスの武器商から、歐米の爆彈や拳銃が

密輸入されようとしたが、これが發覺してしまつたからであつた。

一九三二年四月エクアドルに革命が勃發した。エクアドル海軍の總指揮官イルデフオンゾ・メノドサが、グワヤキルの要塞を占領して、オランダ汽船で歸國せんとする元大統領レオニダス・ギユウチレス大將の上陸を阻止せんとした。これが叛亂の始りである。ギユウチレス大將はオランダ亡命中、ドイツの軍需商と結托し、多數の武器を輸入し、叛亂に成功し新政府を樹立した場合、陸軍擴張計畫をして、ドイツの軍需商から多額の武器を買ふ約束であつたと新聞紙に報ぜられた。

その他ホンチユラス、ドミニカ、ニカラガ等にも相次いで革命が起つた。南米を通じて眞に安定した國はない。革命、動亂、暗殺のメリー・ゴーラウンドである。南米は軍需品業者にとつては實に天國なのである。

一〇 超特急の金儲

各國政治家を操る人々

ドイツが國際聯盟を脱退するに至つた直接の動機は、勿論軍備の平等である。けれども、その踊るヒットラーを操る怪傑が一人居る事を忘れてはならない。ロンドン・タイムスや、ル・ジユ

ルナルなどが、その怪物の事を掲載してゐる。誰であるか。誰でもないルール製鐵王タイセンである。タイセンは一九三〇年から一九三三年に至るナチスの危機に當り、ヒットラーの運動資金として三百萬マルク提供した。そしてヒットラー、フォン・パーベン、ヒューゲンベルヒ同盟を實現させ、フォン・シュライヘル陸相を引退させた。ヒットラーを操りつゝあるこの男は、ドイツ軍需工業の心臓であるドイツ・スチール・トラストの支配權を得た。ヒットラーの背後にはクルツブやタイセンの一味や鋼カルテルなどが控えてゐるから彼の軍用資金の心配はないわけである。その代はりまたは等の財界には頭が上らない。

有名な一九二二年のムツソリーニのローマ進軍(彼はこの一舉で天下を獲つた)の裏面には、アンサルドやテルニ會より徴收した資金があつた。彼はこの金で武器を備へた。ムツソリーニはこれら軍需工業家より提供したる資金を以て、天下を取つたのであるから、彼等の不利益を計る様な事はする筈がない。

フランスにおけるコミテ・デ・フォルジの勢力は眞に豫想外である。フランスの對内及對外政策はもとより國家の大策は一つとしてこの團體に相談しないものはないのである。フランスの政治は軍需品業者の團體であるコミテ・デ・フォルジによりて行はるゝと申しても差支へないものである。

アメリカにおいても、ウイルソン、ハーチング、クーリツチ、フーヴァ、ルズヴェルトの歴代大統領が如何にこれら軍需品業者の跋扈に惱まされ、であらうか。軍需品工業者の勢力はアメリカのみならずイギリスにおいて壓倒的である。一國の政治まで支配せんとする彼等であるから、戦争を製造する企業家と言はれても辯解の言葉もないであらう。

彼等はいくら儲けたか

一體彼等はどうな武器をどこへ輸出するのか。そしてどれ程の利益を擧げてゐるのか。戦争によつて是等の人々はどれほど儲けたか。以下カンタンにこれを調べて見よう。

一九三三年アメリカ議會下院の、「外交政策報告書」によれば、國際聯盟では各國武器輸出問題に關する詳細な統計を作成した。その統計は左の通りである。

各國の武器輸出總額

一九二一年	四二、八一、二七五
一九二二年	四二、四五二、四一三
一九二三年	三九、四一九、一〇〇
一九二四年	四五、七〇二、二〇〇
一九二五年	四八、一〇二、二〇〇

一九二六年	五一、一〇五、四〇〇
一九二七年	四八、〇六〇、四〇〇
一九二八年	五九、二三九、〇〇〇
一九二九年	六四、〇九一、〇〇〇
一九三〇年	五五、二〇一、五〇〇
合計	四九六、一八四、四八八

列國武器輸出總額の割合(一九三〇年)

イギリス	三〇、八%
フランス	一一、九
アメリカ	一一、七
チエツコスロバキア	九、六
スエーデン	七、八
イタリー	六、八
オランダ	五、四
ベルギー	四、四

デンマーク	一・九
日本	一・九

以上の數字でもわかる通り、一九三〇年に於いては、世界武器輸出總額の五十五%が英、佛、米の三ヶ國で引受けてゐたわけである。この三ヶ國が一九二〇年から一九三二年まで世界總輸出總額の七十五%、金額にすれば四億五千九百萬ドル以上の金額を賣上げてゐるのである。これは軍艦だとか飛行機だとか高價な武器は、國際聯盟の統計のなかに含れてゐない事は勿論である。また種々なる方法により、つまり密輸入する軍需品は、恐らく驚くべき程の金額に上るであらう。いまこゝに世界戰爭中ヨーロッパの軍需品製造會社の利益表を掲げて見よう。

ドイツ	戰前三ヶ年の利益	戰中三ヶ年の利益
クルツブ	三二、六二五、〇〇〇 マーク	六六、六六六、〇〇〇 マーク
ライン・M・M・F	一、四四八、〇〇〇	九、五六八、〇〇〇
ドイツチェ・W・M・F	五、四六七、〇〇〇	一〇、七六八、〇〇〇
ケルン火藥會社	四、三三九、〇〇〇	三、九三三、〇〇〇
オーストリアハンガリー	クローネン 五、六〇七、〇〇〇	クローネン 一一、三三三、〇〇〇
スコダ會社		

ボルデ・ヒュウエツト	一、三六〇、〇〇〇	三、六一五、〇〇〇
ワツフエンフフブリツク・ステイル	二、七四九、〇〇〇	一四、二六九、〇〇〇
ヒルテンベルガア・パトロネン・フアブリツク	一、七〇九、〇〇〇	六、九六七、〇〇〇
フランクス	—	—
シユナイダア・クレゾオ	六、九〇〇、〇〇〇	一〇、四〇五、〇〇〇
ホツチツキス	—	八、〇三六、〇〇〇
コメントリリー・ラウルシヤンボオル	四、七九三、〇〇〇	六、六六三、〇〇〇
ウシネス・ア・ガス	八、七七六、〇〇〇	一一、五三六、〇〇〇
ウシネス・メトラジイク・デ・ラ・バスロアル	二、八三六、〇〇〇	六、七七七、〇〇〇
トロイヒロア・ツ・アール	四、三三一、〇〇〇	八、四七五、〇〇〇
アメリカ	平時四年間一ケ年平均利益	戦時四年間一ケ年平均利益
ユー・エス・スチール	一〇五、三三一、〇〇〇 ^{ドル}	三三九、六五三、〇〇〇 ^{ドル}
デュボント	六、〇九二、〇〇〇	五八、〇七九、〇〇〇
ベスレヘム・スチール	六、八四〇、〇〇〇	四九、四三七、〇〇〇
アナコンダ・カツバー	一〇、六四九、〇〇〇	三四、五四九、〇〇〇

ユター・カツバー	五、七七六、〇〇〇	三二、六三三、〇〇〇
アメリカン・スメルテンダ	一一、五六六、〇〇〇	一八、六〇三、〇〇〇
レパブリツク・アイオン・スチール	四、一七七、〇〇〇	一七、五四八、〇〇〇
インターナショナル商船會社	六、六九〇、〇〇〇	一四、三三九、〇〇〇
アトラス火藥會社	四八五、〇〇〇	二、二七四、〇〇〇
英米製造會社	一七三、〇〇〇	三三五、〇〇〇
カナデアアン・汽車會社	一、三三五、〇〇〇	二、二〇一、〇〇〇
クロツカー・ホイラー會社	三〇六、〇〇〇	六六六、〇〇〇
ハーキユールス火藥會社	一、三七一、〇〇〇	七、四三〇、〇〇〇
ナイルス・ビメント・ボンド	六五六、〇〇〇	六、一四六、〇〇〇
スコヴィル製造會社	六五五、〇〇〇	七、六七八、〇〇〇
ゼネラル・モーターズ	六九五四、〇〇〇	三二、七〇〇、〇〇〇

以上の數字でもわかる通り、彼等の暴利は莫大である。莫大とか、非常とか、偉大とか、超特急といふ形容詞では言ひ現はせないほどのべらぼうの儲け方である。

イギリスの元藏相フイリツプ・スノーデンは、その著書「弩級艦と配當」の中で、これらの軍

需品業者のトテツもない暴利を痛烈に非難してゐる。

金儲け、金儲け、戦争を舞臺とする金儲けほど偉大なものはない。

一一 びすび

「戦争は王候の學ぶべき學問である。王候は平和は休息の時と見るべきで、その休んでゐる時、次の戦争の準備をなすべきだ」と、世界的權謀の大家マキアベルが喝破した。平和は望ましい。だが、星や月を掴まんとする希望と同じく、現實世界では空しい希望でしかあり得ない。人類の平和と戦争の希望が相交錯する罫線の上では、どうも青線（平和）はいつも赤線（戦争）の下を通つてゐる様だ。それだけに、世界の武器製造業者は、安心して可なりである。

犯罪の裏には女あり、戦争の蔭には武器商あり、と極言しても差支へあるまい。愛國心を利用して、しこたま儲けるのであるから、こんな割のよい事業はない。戦争はどんな原因で勃發するか。革命はどんな背景で企まれるか。暴動はどんな尻押で計畫されるか。輿論はどんな風にして作られるか。武器はどんな形式で賣込まれるか。軍機の秘密はどんな風に盗まれたか。金は如何にして儲けたか。凡そ以上でカンタンに語り得たと思ふ。

戦争が武器を必要とするのか。武器が戦争を作るのか。そんな事は卵と鳥とどちらが先に生れ

るのか。鐘と撞木とどちらが鳴るのかと同様、閑人のせんさくに任かして置くがよい。われ／＼は、たゞ事實を有りのまゝ正視すべきだ。そしてフランスの猛虎クレマンソウが「平時でも戦時でも、弱い者が踏み潰されるといふ事は、由来すべて人間の歴史である。若し踏み潰される事が嫌なら強くなるに限る」と言つた言葉は國際間においても、個人間においても、その他人事百般いろ／＼な意味で大いに味ふべきものであると思ふ。

355
999

胃腸を強くす
頭の栄養剤



はれゆか

旅行のやりに始りて居る者として又旅行の生活をして居るものにはとかく胃腸不足や過勞に陥り易く便の硬にいたつて頭痛ながらでも不快な気分を感ずるものです。殊に支那各地を遊歴して居る時等は、不慣れた食料と睡眠不足に悩まされ、頭がボンヤリする、ガンを痛むときなど、どうにも始末に了へないのでこの板には全く閉口した。處が最近旅行先で便に大變好意を持つて呉れる知人から頭痛薬「はれゆか」といふのを貰つた。早速例の胃腸不足に悩んでみたところ、大變具合がよい。頭が何となく軽くハッキリして来る。これには便の硬に薬を安んじて適用してゐる。

旅行に絶対必要

支那研究權威 後藤朝太郎先生

愛讀者へ急告!

■本書の著者小林友治著「明日の政權を擔ふ人々」は現在の政局に躍る群雄七人を評したもので、今日の政局の動向を知る上に於て眞に必要なものとして大好評。
 ■松下芳男氏の二名著「永田鐵山論」と「明日の軍部を擔ふ人々軍部智囊十人男」は、いずれも小社月刊の最新刊で、發賣とともにたちまち賣切れ、増刷また増刷に忙殺されてゐます。もし各驛賣店にて賣切れの際は直接本社へ御申込下さい。
 ■「永田鐵山論」は、故永田中將の武人としての一生を氏の名筆をもつて残りなく描き出し、なほ附録に同中將の講演「國家總動員に就て」を添へたもので、「明日の軍部を擔ふ人々」とともに、併せ讀んで、もつて今日の軍部の動向の全貌に通ずることが出来るものであります。いやしくも時局に關心ある者の業績の書だと、あらゆる方面より大好評を受けて居ります。
 ■愛讀者諸君に新刊の通知、連絡を計る爲め愛讀者カードを作製します。どうぞ本書の讀者は、もれなく、この書物の題名、讀後感、お求めの場所、御住所御姓名、いかなる種類の書物の出版物を御希望かをハガキで御知らせ下さい、お願いいたします。

(戦雲の歐洲に歐米)
 定價拾錢
 送料二錢

昭和十年十一月十三日印刷製本
 昭和十年十一月十七日發行

著者 小林友治
 東京市神田區須田町一ノ二四
 發行人 高瀬直繁

印刷所 東神印刷株式會社
 東京市神田區須田町一ノ二四
 印刷人 星野金治郎

發行所 小冊子書林
 東京市神田區須田町一ノ二四

發賣所 普及社
 東京市神田區須田町一ノ二四
 電話東京六五七五〇番
 電話神田(25)三三三三番

！見菊の一本目

所名新都帝

形人菊の園川摩多

- 行奉句上月十は籤抽 •
- 昼遊券購入はに者籤當 •
- と券購入額半はに方のれ渡籤當 •

愛讀
昭和
九子
目

讀賣新聞社



5
99

！見菊の一本日
 所名新都帝
形人菊の園川摩多

- ・行舉旬上月十は籤抽・
- ・呈進券場入はに者籤當・
- ・を券場入額半けに方のれ視籤當・

愛讀者二十万人御招待

昭和十年十月六日十一月五日
 丸子多摩川園（自前年開園以來）

目録・定額券・抽籤券・入場券



讀賣新聞社